

四月のテーマ 再起

やり直しに

もつと

勇気を

丸山竹秋

毎月第一週に配信する「今週の倫理」では、倫理研究所会長・丸山竹秋（一九二一—一九九九）のことばを掲載します。



え・浅妻健司

あ の人は好きだ、と思ったら、
にこにここと挨拶するが、嫌

いとなつたら、そっぽをむいてし
らぬ顔をする。これが彼女の性格
であった。とくに同僚のTは、虫
唾がはしるほど嫌いな一人である。

ある朝、会社の廊下で、偶然そ
のTと顔があった。Tは彼女の意
中を知るよしもなく、声をかけて
挨拶をしてきた。しかし彼女は、
にこりともせず、やり過した。

その昼すぎ彼女が、与えられた
重要書類の整理の仕事をしている
とき、Tが故意にさし出口をきい
て、いろいろ余計なことを言っ
てきた。そのため仕事はいつもより
手間どった。彼女はいら立った。
そのせいか、二重に整理をまちが
えて、上役から、明日もう一回や
り直すように注意された。

彼女は、ふんぷんして家に帰り、
明日皆の前でTの非を訴えてやろ
うかと思った。しかしよくよく考
えてみると、悪いのは、こちらで
ある。自分の勝手な感情で、人を
好悪し、挨拶すらしなかったのだ。
自分からわびるべきだ。だが、そ

れには、自負心が許さない。

その翌朝、またしても廊下の同
じところで、ぱったりと顔をあわ
せてしまった。その瞬間彼女は、
今だと思った。そしてためらわず、
「お早うございます」

と挨拶をしてしまったのである。
Tは信じられないといったようす
だったが、それでもさすがに会釈
だけは返してきた。

いちど挨拶をしてしまうと、心
はすっかり楽になった。彼女は先
方の感情にこだわることなく、そ
の後平気で、挨拶を続けることが
できるようになった。そして五日
目に、「あの時は、すみませんでした」と微笑まじりに、はっきりわ
びることができたのだ。以来
Tの態度はすっかりうち解けて、
二人はしごく仲のよい友達に変わ
ってしまったのである。彼女はこ
うして失敗を償い、おまけに、人
に対する好き嫌いがその後ずっと
やわらいできて、上役からも重宝
がられるように、仕事ぶりが変わ
ってきたのだ。

以上は、ほんの日常茶飯事にす

ぎないことのようなだが、人の一生
には、もつと大きな問題で、やり
直しを必要とする場合がある。こ
のとき勇気をもって、やり直し、
新しくスタートを切ることが、難
関を打開する第一歩である。

編物をしている場合、たった一
目、表編と裏編とをまちがえて、
そのまま何段か編んでしまった。
気がついたときは、ほどくのが惜
しくて、まあまあとそのままにし
て手をすすめてゆくと、できあが
ったときに、ひとつだけ異なった目
が、目だつて、へんなものになっ
てしまう。あの時やり直せばよか
ったのに、と、くやむのだが、今
となつては、全部そこまですどい
てしまわなければならない。

問題は、実はこうした日常茶飯
事にあるといつてもよい。今、編
目をひと目まちがえた。すぐやり
直そう……そのような気持で、小
さなことでも、すぐやり直すよう
にしていることから、ふいに大き
なことをやり直すという勇気が、
出て来るようになるのである。

*『幸福の決め手』より（絶版）